

# オンラインバスツアーへ 鹿児島へ

佐藤 緑

まず、この企画のために尽力された会計の岩間清美さん、事務局の宮田はるみさんに深くお礼申し上げます。「琴平バス」と何度も連絡を取り合い、有志で行うみみより会だけの貸切ツアーを企画していただきました。

前日に、宅急便で旅行ガイド、お土産の焼酎や知覧茶、鶏飯(けいはん)、知覧特攻隊の絵葉書が届きました。知覧は鹿児島からバスで一時間超かかり、車の運転ができない個人で行くとすると、ハードルがやや高そうです。オンラインバスツアーなら、コロナ以降も移動に難がある人が楽しめそうです。三田で集まれば、手話通訳と要約筆記、UDトークが付くので、ろう者や難聴者は困りません。

旅行気分を盛り上げるべく、鹿児島産焼酎、紅白ワイン、おつまみ、お菓子を片



手に三田に行きました。久しぶりにお会いする会員の皆さんの姿。  
宮田理事

長もお元気そうでした。コロナ対策のため、会では透明マスクを配布。三人掛けの席に離れて二人座るようになっていました。紙製の「シートベルト」をタスキ掛けすれば、旅の始まりです。



Zoom(ズーム)ミーティングの画面を会場中央部にスクリーン投影、運転手なちやん、ガイドのさきちゃんが登場しました。新幹線で



鹿児島中央駅まで行き、そこからバスに乗るとい設定。運転手は紙のハンドルで運転、時々急ブレーキもかけるそうです。

後部座席(！)では、すでに開始前から男性陣が持参した缶ビールを開けています。あつという間に知覧に着きました。

「どうして新幹線に、すでにシートベルトを締めた運転手やガイドがいるんだろう」「どうしてそんな早く知覧に着けるのだろう」という疑問は置いと



ましよう。

現地では、実際に「南薩観光」から、薩摩の武家屋敷と知覧平和公園を「なおみちゃん」という男性が案内してくださいました。知覧の武家屋敷は、秋田の角館などのように小京都「しょうきょう」と



と読むのは初めて知りました。なおみちゃん、自らは、スマホで自分の姿や風景を動画で撮影しながらときばきと

説明、時々

アシスタントが撮影するカメラに切り替えます。アシスタントさんは、なおみちゃん自撮りで操作している間に後ろに映りこむこともあります。一観光客に見える自然なたたずまいに、最初は「どうして同じ人がずっと後ろを歩いているの



だろう」と不思議に思っていました。「お茶のはまだ」では、知覧茶の紹介がありまして。東日本では、産地として静岡が有名ですが、

このところ鹿児島の新茶も大手メーカーのインスタントパックで採用されています。知覧茶の特徴は、甘くて色がきれいに出るところです。同じ鹿児島名産の焼酎と割ればつつい飲み過ぎてしまうという話でした。会員のおひとりから、物産展で知覧茶を購入された話も後で聞きました。東日本在住の自分としては、このツアーがなければ知覧茶をよく知らないままだったと思います。焼酎についても、なおみちゃんから他県の麦などを使った焼酎の歴史が語られました。薩摩焼酎の芋を



使った甘い香りと味わい。白波のほか、富乃宝山、一刻者などが関東でも出回っています。

最後に、知覧平和公園へ。特攻隊の若き兵士たちが実際に寝泊まり、遺書をしたためた場所、平和特攻会館、沖縄を見つめる兵士の立像が案内されました。兵士の遺書も朗読されました。まだ十代、二十代前半の彼らは、立派な文章を綴り、戦後の日本の繁栄を見ることなく空に散



つてい  
ったと  
いいま  
す。  
お土産  
につい  
ていた  
鹿児島  
産焼酎  
白波で  
献杯：  
のつも  
りが、  
一部で

先に献杯が始まりました。現地に行かないと、こういう行き違いはありませんね。とにかく厳粛な気持ちで仕切り直し、コカ・コーラで若い兵士たちを思って献杯。

画面の向こうでは、なおみちゃんが白波を一气飲みされ、ちよっと顔に赤みがさしています。現地にいれば、薩摩男児の日常などもお尋ねできたかもしれませぬ。最後の質問で、アシスタントさん

とも手を振ってお別れできました。



さとう × みどり (東京都足立区) ×